

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																			
経専北海道保育専門学校	昭和55年11月5日	中田靖泰	〒005-0004 札幌市南区澄川4条4丁目1-1 (電話) 011-812-9626																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人経専学園	昭和48年4月24日	山本 清	〒005-0004 札幌市南区澄川4条4丁目1-1 (電話) 011-824-1000																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																		
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	こども未来学科	平成二十三年文部科学省 告示第百六十七号	-																		
学科の目的	保育・幼児教育に関する幅広い専門知識とより高い保育技術を習得させるとともに、明るく意欲的、かつ感性豊かな人間性をもち、現場に即応できる人材育成を目指す																					
認定年月日	平成26年3月31日																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技															
	3年	昼間	131単位	37単位	120単位	13単位	0単位	1単位														
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																
120人		95人	0人	9人	60人	69人																
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学則第9条により優、良、可、不可																	
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月～9月 4週以内 ■冬季:12月～1月 3週以内 ■学年末:2月授業終了から3月31日			卒業・進級条件	学則第21条による 卒業判定会議及び進級判定会議で決定																	
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談実施			課外活動	■課外活動の種類 絵本読み聞かせボランティア  ■サークル活動: 有																	
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(2022年度卒業生) 保育園、幼稚園、認定こども園、福祉施設等			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (2022年度卒業生に関する2023年5月1日時点の情報)																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士</td> <td>①</td> <td>32人</td> <td>32人</td> </tr> <tr> <td>幼稚園教諭二種免許</td> <td>①</td> <td>32人</td> <td>32人</td> </tr> <tr> <td>社会福祉主事任用資格</td> <td>①</td> <td>32人</td> <td>32人</td> </tr> <tr> <td>折紙講師資格</td> <td>③</td> <td>32人</td> <td>32人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	保育士	①	32人	32人	幼稚園教諭二種免許	①	32人	32人	社会福祉主事任用資格	①	32人	32人	折紙講師資格	③
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																			
保育士	①	32人	32人																			
幼稚園教諭二種免許	①	32人	32人																			
社会福祉主事任用資格	①	32人	32人																			
折紙講師資格	③	32人	32人																			
就職指導内容		履歴書指導、個別面接指導、就職指導の授業、就職ガイダンス、就職セミナー等			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																	
■卒業生数		32	人	■自由記述欄																		
■就職希望者数		32	人																			
■就職者数		32	人																			
■就職率		100	%																			
■卒業者に占める就職者の割合		100	%																			
■その他																						
( 2022年度卒業生に関する 2023年5月1日 時点の情報)																						
中途退学の現状	■中途退学者		3名	■中退率		3.5%																
	2022年4月1日時点において、在学者85名(2022年4月1日入学者を含む) 2023年3月31日時点において、在学者82名(2023年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更等  ■中退防止・中退者支援のための取組 年度当初に目標設定し、毎週の職員会議にて情報共有、対策検討																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 入学時の特待生試験にて3つのランクで奨学生を選出(全受験者の10%程度)Sランク特待生600,000円授業料免除、Aランク特待生300,000円授業料免除、Bランク特待生100,000円授業料免除  ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																					
当該学科のホームページURL	http:keisen-hoiku.com																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施する。

- ・実践的な設備の充実と早期からの多様な実習による「基本的な知識、技能の習得」
- ・業界講演会や卒業生による職業体験談を通しての「キャリアプランニング能力の育成」
- ・年間2回開催する「教育課程編成委員会」によるキャリア教育における実習等の状況の振り返りと教育活動の評価・改善の実施

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は学校長のもとに位置付け、教育課程編成委員会で企業及び業界団体等の意見・助言を活かしたカリキュラムの改善を図る。決定事項は部長を通じ、部長代理から教務へと周知し教務全体で意思統一を図る。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2023年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
前田元照	公益社団法人北海道私立幼稚園協会 副会長	2022年4月1日～2024年3月31日(1年)	①
今野路子	こども園・ひかりのこ さっぽろ 園長	2022年4月1日～2024年3月31日(1年)	③
五十嵐京湖	認定こども園 おとぎの国 園長	2022年4月1日～2024年3月31日(1年)	③
鈴木 朗	経専北海道保育専門学校 部長	2022年4月1日～2024年3月31日(1年)	
若松幹子	経専北海道保育専門学校 部長代理	2022年4月1日～2024年3月31日(1年)	
小川 睦美	経専北海道保育専門学校 こども学科	2022年4月1日～2024年3月31日(1年)	
中谷摩美	経専北海道保育専門学校 こども未来学科	2022年4月1日～2024年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回開催、開催時期は概ね前期（4月～9月）1回・後期（10月～3月）1回

（開催日時）

第10回 平成30年7月30日 15:00～16:30	第15回 2020年12月21日 15:00～16:00
第11回 平成30年12月10日 15:00～16:15	第16回 2021年9月3日 15:00～16:15
第12回 2019年8月1日 15:00～16:30	第17回 2021年12月20日 15:00～16:00
第13回 2019年12月19日 15:00～16:15	第18回 2022年7月28日 15:30～16:30
第14回 2020年10月23日 15:00～16:00	第19回 2022年12月21日 15:00～16:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

卒業年次学生の就職に関する意識について意見交換を行った。保育業界への憧れを抱き入学してきた学生が、卒業年次となり就職への意識がどのように変化しているか調査し、その結果について話し合った。結果として給与や社風、福利厚生などを重視する傾向が高く、こどもとの関わりへの関心が薄くなっている。養成校も保育現場に於いても保育の楽しさややりがいを伝え続け、学生のモチベーションを維持する仕組みづくりが必要であると共通認識した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

保育士資格及び幼稚園教諭免許に必要な知識を学ぶことはもとより、現場で活躍している講師から実際の保育現場で行われている保育内容について学び理解を深める。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

連携している保育園の園長による「保育内容総論」の演習授業を1単位（90分×8週間）実施。実際の保育現場で実践している保育士の活動例を紹介し、子どもの成長過程や年齢に応じた配慮などを学ぶとともに、保育園のホールでの活動を想定した演習（ロールプレイ）を実施。成績評価については、出席状況や受講態度と合わせて、授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結びつけて総合的に理解できたか、レポート（1,500文字程度）と記述式試験にて優、良、可、不可の4段階で評価していただくこととしている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育内容総論	子どもの生活と保育内容について理解し、子どもの成長過程と年齢に応じた配慮や支援について学び、保育者の役割と子ども理解をロールプレイやグループワークを通して理解を深める。	西野保育園

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 本学教育理念及び教育方針・指針に基づき、教員養成において指導力の向上を図りキャリア教育に関する必要な知識や指導方法を習得させるために職員研修を実施する。これらは学園の教職員研修規定に定められている。  
 ・産業団体や協会等が開催する講演会や研修に教員を計画的に派遣する  
 全国保育士養成協議会全国大会(年1回参加)、北海道幼稚園教諭養成校協会実習委員会(年1回参加)  
 北海道私立専修学校各種学校連合会主催教員研修(年2回参加)  
 ・教育支援活動として協力いただいている企業との「必要とされる専門知識・技能の習得」等についての意見交換(年2回)を実施する  
 ・日常の授業、実習指導の向上を図るための教員による授業参観の開催と評価会を実施する

(2) 研修等の実績  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 全国保育士養成協議会全国大会 2022年8月25,26日(オンライン開催)  
 ② 指導力の修得・向上のための研修等  
 北海道専修学校各種学校連合会主催教員研修を受講 2022年12月22日

(3) 研修等の計画  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 全国保育士養成協議会全国大会 2023年9月2,3日、北海道幼稚園教諭養成校協会(実習委員会) 2023年10月予定  
 ② 指導力の修得・向上のための研修等  
 北海道専修学校各種学校連合会主催教員研修 2023年8月1日、12月予定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針  
 本校は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について、自己点検・評価はもとより、企業等、学校関係者等が評価に参画する学校関係者評価委員会を設置して客観的な点検及び評価を行い、教育体制の強化を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況  
 ・学校関係者評価委員より、この業界を志す高校生が減少していることが問題である。現場でも人材確保が大きな課題であり、将来への不安は尽きない。教育の質向上と学生の安定した確保が大切である。この分野のカリキュラムは国家資格のためきちんと定められており問題はない。入学者を増やし、安定して現場へ優秀な人材を供給してもらいたい。  
 対応: 学生募集活動を行う際に、高校生からの資料請求時には保護者宛に保育業界の現状を伝える手紙を送付し、オープンキャンパスでの学校説明時にも待遇や働く環境が向上していることを強調して伝えることとした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2023年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
鳥居敬徳	澄川ひろのぶ保育園	2023年4月1日～2025年3月31日(2年)	企業等
宮崎博一	社会福祉法人楡の会	2023年4月1日～2025年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
 (例) 企業等委員、PTA、卒業生等

5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
 ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) ( )、公表年月日: 2022年7月19日  
 URL: <http://www.keisen-hoiku.com>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について評価委員を置き、点検及び評価を行い、その結果を公表することとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育目標、所在地、連絡先等
(2) 各学科等の教育	入学定員、カリキュラム、卒業後の進路、資格取得等
(3) 教職員	教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実習の取り組み状況、就職支援等への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事の取り組み状況等
(6) 学生の生活支援	学生支援の取り組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	納付金の取り扱い、活用できる経済的支援措置等
(8) 学校の財務	財務諸表等
(9) 学校評価	学校関係者評価の結果及び改善方策
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

~~ホームページ~~ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL:<http://www.keisen-hoiku.com>

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			憲法	基本的人権が争点となった具体的な事例をとりあげ、日本国憲法における人権論のありようを講義するとともに、議論する。	1後	15	1	○			○			○	
○			情報リテラシーと処理技術	Windowsの基本操作・代表的なアプリケーションソフトウェアの基本操作を学び、パソコンを利用する上で必要な知識と技術を身につける。	1前	30	2	△	○		○				○
○			英語コミュニケーションⅠ	日本のグローバル化に対応するコミュニケーション・ツールとしての英会話を念頭に、授業を通じて日常的レベルの英語の語感を身につけ、知識・英会話力をアップする。	1前	15	1	○			○				○
○			健康科学	現代社会が抱える健康に関する諸問題と生活習慣との関連について理解し、生涯を通じた健康づくり・体力づくりの基礎を習得する。	1前	15	1	○			○				○
○			スポーツ(実技)	基礎体力・運動技術・チームワーク・豊かな人間性・自主的な判断による行動・安全性の確保を養う。健康維持・増進をはかり、自己の健康を管理する能力を身につける。	1後	30	1			○	○				○
○			保育原理	「保育」を考える基本的な視点を養うために、保育の意義や目的、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針など多様な側面から学びを深めることを目的とする。	1前	15	1	○			○				○
○			社会福祉論	社会福祉の意義や歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援に触れ、その意義や制度体制について理解を深めるとともに、子ども家庭福祉との関連についても学ぶ。	1後	15	1	○			○				○
○			教育原理	保育の意義と目的、法令及び制度など保育の基本について理解し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育におけるさまざまな課題に関する認識を深める。	1前	15	1	○			○				○
○			社会的養護Ⅰ	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷を学ぶ。さらに、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本や制度・実施体系・現状と課題について理解を深める。	1後	15	1	○			○				○
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			こども家庭福祉	望ましい保育者となるために、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解するとともに、制度や関係機関の実施体制について、学びを深めていく。	1前	15	1	○			○		○		
○			発達心理学	子どもたちの心を良く理解し、適切な保育・教育・養育・指導をするための心理学的な視点の重要性を学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	
○			教育心理学	発達の観点から乳幼児期におけるこどもの身体的・心理的特徴について理解を深め、現代社会において必要とされる「教育」の在り方を学ぶ	1後	30	2	○	△		○			○	
○			こどもの指導法(言葉)	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先進となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深める。文学への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についての意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探究する。	1前	15	1		○		○			○	
○			こどもの指導法(人間関係)	子ども達を取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深める。	1後	15	1		○		○			○	
○			こどもの指導法(リズム表現)	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を学ぶ、	1前	15	1		○		○			○	
○			音楽表現論	子どもが遊びや生活の中で、子どもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての感性を養う。	1前	15	1		○		○			○	
○			言葉とこどもの文化	言葉の機能を理解し、絵本・紙芝居・おはなし等、子どもが言葉を育むことに役立つ言語教材である児童文化財への専門的知識を深める。また、その利用の仕方について理解する。	1後	15	1		○		○			○	
○			造形表現論	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。	1前	15	1		○		○			○	
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人間関係論	人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践におかれ、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考える。	1前	15	1	○			○			○	
○			こどもの発達と家庭支援	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、家族・家庭の意義や機能を理解する。親子関係や家族関係等について発達の観点から理解を深め、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。	1前	15	1	○			○			○	
○			保育実習指導 I	実習の意義・目的を理解し、今までの学びを考えながら、子どもをどう援助していくか演習を通して考える。実習の流れと心得をテキストを中心に学び、自分の実習課題を考える。	1前	10	0		○		○			○	
○			乳幼児保育 I	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割について学ぶ。また、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題や3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。	1後	15	1	○			○			○	
○			乳幼児保育 II	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について学ぶ。養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。	3前	15	1		○		○			○	
○			保育内容総論	保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全般を理解し、各領域を総合的に捉える視点について学ぶ。保育の基本を踏まえた保育内容に展開について具体的な保育実践と結び付けながら学ぶことを目的とする。	2後	15	1		○		○			○	
○			教育課程論	幼児を育てる上で「大切なこと(目標)」「どのような方法・手立て(方針)」「どのような内容で」「どの時期に」「どのような環境で」等を学ぶ。	2前	15	1	○			○			○	
○			教職論	教職者の資質、専門性、制度的位置付け、子ども理解、教職内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などである。	2前	15	1	○			○			○	
○			教育方法論	教育方法の定義、意義、守備範囲の概念についての基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価との関連性についての理解を深める。教育(保育)現場における様々な課題を解決する教育(保育)方法とその活用についての理解を深め、保育者として必要な資質を深める。	2前	15	1	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			障害児保育	個々の障がい特性を理解し、障がい児だけではなく、統合保育の視点で、保育者として必要な力を身に付ける。	2前	30	2	○	○		○			○	
	○		こどもの理解と援助	こども理解を深めるための様々な視点や方法を学とともに、それを踏まえた上での援助の考え方や方法について学ぶ。	2後	15	1		○		○				○
		○	こどもと造形	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩分割及び構成学習を行う。	2前	15	1		○		○				○
○			こども家庭支援論	子育て家庭を取り巻く様々な社会状況について把握し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の現状と課題について理解を深める。	2前	15	1	○			○				○
○			こどもの保健	小児保健の意義を理解し、それぞれの発達段階における身体的、生理的、社会性も踏まえた精神機能の発達について学ぶ。	2前	15	1	○			○				○
		○	こどもの食と栄養	乳幼児期の健康と食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、保育者として、子どもに適切な食事を提供する意義と食生活等関連するガイドライン等を踏まえ理解する。	2後	30	2		○		○				○
○			社会的養護Ⅱ	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。施設養護及び家庭養護の実際や社会的養護における計画・記録・自己評価、相談援助の方法・技術、子ども虐待防止と家庭支援について理解する。	2前	15	1		○		○				○
		○	こどもの指導法「健康」	乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的な方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康づくり指導を目指す。	2前	15	1		○		○				○
		○	こどもの指導法「環境」	こどもは、家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園などの生活経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。本科目では、環境とは何かを理解しそこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的事例を挙げて学習していく。	2前	15	1	○			○				○
合計					科目	単位時間( 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2023年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		こどもの指導法「造形表現」	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。	2前	15	1		○		○			○		
	○		こどもの理解と相談支援	幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める	2前	15	1	○			○				○	
	○		教育実習事前事後指導	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。	3前	15	1	○			○					○
○			表現とこどもの運動	こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びが展開できる知識及び実践力を理論的に深める。	2前	15	1	○			○					○
	○		こどもの指導法「言語表現」	幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いた表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身につける。	2後	15	1		○		○					○
○			特別支援教育	特別な教育的ニーズを持つ子供を支援するにあたって、子供自身の特性を理解する。子供を支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別的教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深める。	2前	15	1	○			○				○	
	○		環境論	こどもを取り巻く環境は様々であり、その中でこどもは生活をしている。具体的な環境例を示しながら、それらとこどもの発達の関係性を考える。	2後	15	1	○			○					○
	○		こどもの健康と安全	現代社会における子どもの健康問題や地域保健活動について理解する。保育現場における感染症・事故防止・安全対策・危機管理・災害管理について具体的に理解する。	2後	15	1		○		○					○
	○		子育て支援	保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解するとともに、保育士の行う子育て支援の展開を学ぶ。	3前	15	1		○		○					○
合計								単位時間( 単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	前・後期
		1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			こどもの指導法「音楽表現」(第1・2・3教程)	領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通じた様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解する。	2前	30	2	○			○		○		
○			保育実習指導Ⅱ	保育現場での保育実践を、自分の物として身に付けられる事をねらいとする。他授業で学んだ知識および保育実習Ⅰで学んだ内容を振り返り、実習で生かせるように準備する。	1後	15	1	○			○		○		
○			保育実習指導Ⅲ	施設種により保育者の仕事の具体的な支援内容は異なる。自分の行く実習施設種を中心に事前レポート、事後レポートなどで学習する。	1後	15	1	○			○		○		
○			保育実習Ⅰ(保育所)	保育所の生活に参加し、保育内容、機能を学ぶ。保育現場での体験を通して、保育士としての職業倫理とこども最善の利益について具体的に学び、保育士の役割について理解を深める。	2前	80	2	○			○		○		
○			保育実習Ⅰ(施設)	施設の生活に参加し、支援内容、機能を学ぶ。現場での体験を通して、保育士としての職業倫理とこども最善の利益について具体的に学び、保育士の役割について理解を深める。	3前	80	2	○			○		○		
○			保育実習Ⅱ(保育所)	保育所の生活に参加し、保育内容、機能を学ぶ。保育現場での体験を通して、保育士としての職業倫理とこども最善の利益について具体的に学び、保育士の役割について理解を深める。	2前	80	2	○			○		○		
○			保育実習Ⅲ(施設)	施設の生活に参加し、支援内容、機能を学ぶ。現場での体験を通して、保育士としての職業倫理とこども最善の利益について具体的に学び、保育士の役割について理解を深める。	3前	80	2	○			○		○		
○			教育実習Ⅰ	講義等で習得した知識・技術を基礎とし、子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深め、職務内容、教育理念、教育内容及び方法について学ぶ。	3前	80	2	○			○		○		
○			教育実習Ⅱ	講義等で習得した知識・技術を基礎とし、子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深め、職務内容、教育理念、教育内容及び方法について学びを深める。	3前	80	2	○			○	○	○		
○			保育実践Ⅰ(保育所)	講義や演習で習得した知識・技術を基礎とし、保育者の職務内容について実践的に学ぶ。	2通	75	5	○			○		○		
○			保育実践Ⅰ(施設)	講義で習得した知識を基礎とし、様々な福祉施設の機能や役割などについて学ぶ。	3通	75	5	○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			保育実践Ⅱ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を実践し、知識を深め、技術の向上を目指す。	2通	75	5	○			○				
○			教育実践Ⅰ	教育実践Ⅰを基礎とし、こどもへの理解を深め、保育者の職務について実践的に学ぶ。	3通	75	5	○			○				
○			教育実践Ⅱ	教育実践Ⅱを基礎とし、教育理念、教育内容や教育方法について学ぶ。	3通	75	5	○			○				
○			保育・教職実践演習	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。幼児の発達の特徴や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。	3前	30	2	○	○		○			○	
		○	地域ボランティア	地域の児童福祉施設や社会福祉活動などへの活動を通して、教職を目指すものとしての自覚を高め、実社会の中での人間関係の構築について実践的に学ぶ。	3通	45	3	○			○	○			
		○	教育原理	教育原理は、教育学の基本及び基礎的事項について包括的に学習し、包括的に深めていく科目である。また教育史に触れながら、過去の教育学の基礎を培った人物の功績、歴史的背景を踏まえながら、教育の本質に触れ、現在の教育状況を考察していく。	1後	4		○			○			○	
		○	発達心理学	1. 発達心理学の必要性、発達に影響する要因、発達に関する主な理論、発達段階や発達課題についての知識を習得する。2. ヒトの各領域における発達の様相についての知識を習得する。	1後	4		○			○			○	
		○	保育原理	保育の理念、保育の基本原則、保育の歴史を学ぶ事を通して時代による家族と社会、教育のあり方を理解する。「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」等の内容を踏まえ、保育の質を高める保育のあり方を学ぶ。	1後	4		○			○			○	
		○	こども家庭福祉	保育士養成課程における「保育の本質・目的に関する科目」として、こども家庭福祉の意義や、歴史的変遷、こどもの人権擁護のほか、現代の子育て家庭の抱えるさまざまな課題について学ぶ。	1後	4		○			○			○	
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	前・後期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	社会的養護Ⅰ	①現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷 ②こどもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本③社会的養護の制度や実施体系等④社会的養護の意対象や形態、関係する専門職等について⑤社会的養護の現状と課題について理解する。	1後	4		○			○			○	
	○		病児保育Ⅰ	病児・病児後の発達・心理を理解する。こどもと発達と発達段階を踏まえた関わり方を学ぶ。	1後	15	1	△	○		○				○
		○	教育相談	学校・園の現場では、幼児・児童・生徒がさまざまな課題に直面する。それは成長の一過程ではあるが、当事者にとっては大変大きな問題である。そのような状況を踏まえ、学校・園での教育相談のあり方や教育相談を実施する上での課題について学ぶ。	2後	4		○			○				○
		○	こどもと人間関係	領域「人間関係」における基礎知識を学び、「保育所保育指針」及び「幼稚園教育要領」における領域「人間関係」の内容を理解する。	2後	4		○			○				○
		○	こどもと言葉	こどもの月例段階による発語の在り方を知り、喜んで言語活動が出来る具体的な方法を学ぶ。様々な児童文化財や情報機器の活用法を理解し、活発な言語活動の構想の中で応用できるようにする。	2後	4		○			○				○
		○	保育内容(表現)	身体表現の実践を通して、表現する喜びや楽しさ、人とかかわる楽しさを体験し、こどもの目線に立った楽しさ、遊びを発展させる面白さを味わう。	2後	15	1		○		○				○
		○	保育内容(環境Ⅱ)	「乳幼児を取り巻く環境」「乳幼児の身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達」「乳幼児の身近な環境との関わりにおける標識・文字・情報・施設との関わり」の3点について、実践事例を理解する。	2後	15	1		○		○				○
		○	保育内容(健康Ⅱ)	領域「健康」の学習内容をもとに、日常生活に身の回りのことを自分でする基本的な生活習慣の確立、遊びや集団生活を通して友達や保育者など他者との関わり方など、こどもが健康で安定した生活が送れるような態度や習慣を培う指導法について学ぶ。	2後	15	1		○		○				○
		○	保育内容(人間関係Ⅱ)	教育の場で、一人ひとりが大切にされ、こども理解を深めながら、さらに互いが豊かな関わりが持てる集団を形成するには、どのような課題があるのか、保育における人間関係を様々な側面から考察し、事例をもとに学ぶ。	2後	15	1		○		○				○
		○	言語表現	領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、こどもが豊かな言語表現活動を行うために必要な児童文化材に関する知識や保育技術の習得を目指す。	2後	15	1		○		○				○
		○	身体表現	幼児を対象とした身体表現遊び：運動を実践するために必要な実践的量的性を目的とする。	2後	15	1		○		○				○
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		こどもの救急Ⅰ	普通救命（自動体外式除細動器業務従事者）講習の内容に加えて、小児・乳児の心肺蘇生、傷病者管理、外傷の応急手当、搬送法など学ぶ	2前	15	1		○		○	△		○	○
	○		病児保育Ⅱ	病児保育の概念や基本的理念、社会背景を学び、様々な病児・病後児保育室の特徴を知る。	2後	15	1	△	○		○	△		○	△
	○		こどもの看護	病児・病後児保育における感染症対策について、具体的且つ実践的に学ぶ。	2後	15	1	△	○		○			○	
		○	こどもと健康	幼児期に育みたい資質・能力について領域「健康」の狙いと内容について理解する。こどもを取り巻く環境を踏まえ、運動遊びの指導について学ぶ。	3後	4	0	○			○				○
		○	こどもと環境	幼児期において育みたい三つの資質・能力、幼児期に終わりまでに育てたい10の姿について学ぶ。	3後	4	0	○			○				○
		○	こども理解の理論と方法	こども理解の基盤となる発達心理学、臨床心理学等の理論を学ぶ。また、幼稚園教諭の専門性としてのこども理解のあり方を幼児教育の特質と関連性を学ぶ。	3後	4	0	○			○				○
		○	教育制度・行政論	教育制度・行政に関する基礎概念・基本的論点・課題に関する理解を深め、教職に必要な教育制度・行政に関わる知識を獲得する。	3後	4	0	○			○				○
		○	特別支援論	各障がいについてその症状と支援及び障がい児支援の歴史、インクルージョン・特別な配慮を要するこどもの教育・保育を支える理念及び制度を学ぶ。また、具体的教育支援計画及び障がいはないが、特別な教育ニーズのある幼児。児童の困難さとその対応を学ぶ。	3後	4	0	○			○				○
		○	造形表現	子どもたちが持つ無限の可能性をいかにして、多く引き出す手助けができるか。幼稚園、保育所、認定こども園等での造形表現における子どもの発達段階も交えながら、製作を行い、模擬保育の含めて助言方法や技術について学ぶ。	3後	15	1		○		○				○
		○	こどもと表現Ⅰ	子どもの体育的活動の指導者として必要な基礎的知識と技能について学習する。子どもの心身の発達特性や運動特性を理解し、子どもの健全な心身の発達を促すための身体活動についての知識と技能を習得する。	3後	15	1		○		○				○
		○	こどもと表現Ⅱ	美術・造形の基礎・基本・表現技法のあり方、美術の専門知識などを学ぶ。また、子どもの絵の表現の発達の道筋をたどりながら、幼児・児童に即した造形表現の教材を視野に入れ、教材のあり方、支援・指導のありかたを理論・実技の両面から実践する。	3後	15	1		○		○				○
		○	こどもと表現Ⅲ	声楽における姿勢・呼吸・発声についての基本的な技能・知識を学び、演習を通して歌唱技術を高める。また、音楽解釈を基に歌唱表現を深め、曲の特徴にふさわしい楽曲表現を習得する。	3後	15	1		○		○				○
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等
	1学年の学期区分 前・後期

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			手づくりおもちゃ	「手芸の基礎」を踏まえ、保育現場で教材として使える布製のおもちゃ3作品程度を作成する。	1後	30	2	○			○			○	
○			幼児の音楽Ⅰ	歌、器楽合奏など通じて幅広く幼児音楽を習得する。	1通	30	2	○			○			○	
○			折紙Ⅰ	折紙の基本となる8つの基本形を習得し、身近な題材を折る。また、折り方の過程を作成し、折紙ファイルを完成する。	1前	30	2	○			○			○	
○			保育活動Ⅰ	保育内容を理解し、こどもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。	1前	15	1	○			○		○		
○			指導計画Ⅰ	各年齢に合った保育内容の理解を深め、立案の方法を学ぶ。	1後	15	1	○			○		○		
○			パネルシアターⅠ	パネルシアターを製作、実践することにより、視聴覚教材の一つであるパネルシアターについて学びを深める。	1前	30	2	○			○		○		
○			ペン字Ⅰ	ひらがな、カタカナの正しい字形を会得し、実習に向けての身上書の完成を目指す	1後	15	1	○			○			○	
○			日誌指導Ⅰ	保育所実習に向けて、実習日誌の記録の仕方を理解する。また、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用方法について学ぶ。	1後	15	1	○			○		○		
○			ピアノⅠ	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人レッスン形式にてピアノを使用して学び、基礎固めをする。	1前	30	2	○			○			○	
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ピアノⅡ	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人レッスン形式にてピアノを使用して学び、基礎固めをする。初心者はバイエル修了を目指す。	1後	30	2	○			○			○	
○			折紙Ⅱ	日本折紙協会：折紙講師資格取得を目指す。	2後	30	2	○			○			○	
○			保育活動Ⅱ	保育所実習に向け、実際に子ども達と遊ぶ技術（手遊び、歌遊び、ゲーム、鬼ごっこ、ダンス等）や指導の仕方を身につけ、学ぶ。	2前	15	1	○			○		○		
○			指導計画Ⅱ	各年齢に合った保育内容の理解を深め、自ら立案をする力を身に付ける	2前	15	1	○			○		○		
○			日誌指導Ⅱ	保育実習に向けて、実習日誌の記録の仕方を理解する。また、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用法について学ぶ。	2前	15	1	○			○		○		
○			カリキュラム立案Ⅰ	幼稚園の教育内容とデイリープログラム、各年齢に適した活動内容を理解し、立案の考え方・手順を身に付け、年齢ごとの部分案を立案する。	2後	15	1	○			○		○		
○			ピアノⅢ	ピアノⅡを基礎に、幼児に幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、より高度な演奏技術・技能を学習する。ブルグミュラー25の練習曲の終了を目指す。	2前	15	1	○			○			○	
○			ピアノⅣ	ピアノⅢを基礎に、幼児に幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、より高度な演奏技術・技能を学習する。ブルグミュラー25の練習曲終了を目指す。	2後	30	2	○			○			○	
○			こどものうたⅠ	「あいさつ」曲からレッスン（おはよう）（おべんとう）（おかえりのうた）。等の弾きうたいが出来るようにする。	2前	15	1	○			○			○	
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			こどものうたⅡ	こどものうたⅠを基礎に、保育者として最も必要とされる弾きうたいの技術・技能を習得する。	2後	30	2		○		○			○	
○			施設実習論	施設実習に向けての基本的な知識と心構えを学ぶ。	3前	15	1	○			○			○	
○			幼稚園教育要領	幼稚園教育要領の歴史的概観や改訂に至る背景、改訂のポイントを知る。幼稚園教育要領の内容について各章ごとに学習し、幼稚園の生活・保育・教育の取り組みについて学ぶ。	3後	15	1	○			○				
○			就職指導	就職活動に向けて具体的な試験対策（履歴書指導、面接指導、マナー等）を行い、志望先へ就職することを目指す。	3通	30	2		○		○				
○			カリキュラム立案Ⅱ	幼稚園の教育内容とデイリープログラム、各年齢に適した活動内容を理解し、立案の考え方・手順を身に付け、部分案・1日案を立案する。	3前	15	1		○		○				
○			介護概論	介護について理解を深めると共に、介護を行う為に必要な知識を身に付ける。	3前	15	1	○			○				○
○			保育活動Ⅲ	幼稚園実習に向けて、各々年齢や、ねらいに基づいた活動について、実践しながら留意点などを考え、集団遊びなどの一斉活動の指導法について学ぶ。	3前	15	1		○		○				○
○			ピアノⅤ	保育の場で必要な音楽を表現豊かに演奏する技術、能力をさらに高める。	3前	15	1		○		○				○
○			ピアノⅥ	保育の現場で必要な実践的音楽技術や豊かな表現で演奏する知識を広め、能力をさらに高める。ソナチネ以上を目指す。	3後	30	2		○		○				○
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2023年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			保育者の心得	幼児保育・教育現場での専門職としての役割について理解を深める。こどもや保護者、職員との関わりについて、演習を通して学ぶ	3後	15	1		○		○					
○			保育者のマナー	幼児保育・教育現場で保育者としてのマナーについて理解を深める。保護者、職員、来客等との関わりや社会人としてのマナーについて、演習を通して学ぶ	3後	15	1		○		○					
○			保育所保育指針	保育所保育指針を基に、現在の保育現状を把握し、深く学習することを通し、専門的知識を高める	3後	15	1	○			○					
○			こどものうたⅢ	こどものうたⅡを基礎とし、より高度な表現力を習得し、保育の場で必要なこどものうたの弾きうたいのレパートリー（こどものうた200）を拡大する。	3前	15	1		○		○				○	
○			こどものうたⅣ	こどものうたⅢを基礎とし、より高度な表現力を習得し、保育の場で必要なこどものうたの弾きうたいのレパートリー（続こどものうた200）を拡大する。	3後	30	2		○		○				○	
○			日誌指導Ⅲ	教育実習に向けて、実習日誌の記録の仕方を理解する。また、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用法について学ぶ。	3前	15	1		○		○					
○			保育者のマナー	幼児保育・教育現場で保育者としてのマナーについて理解を深める。保護者、職員、来客等との関わりや社会人としてのマナーについて、演習を通して学ぶ	3後	15	1		○		○					
○			保育所保育指針	保育所保育指針を基に、現在の保育現状を把握し、深く学習することを通し、専門的知識を高める	3後	15	1	○			○					
○			こどものうたⅢ	こどものうたⅡを基礎とし、より高度な表現力を習得し、保育の場で必要なこどものうたの弾きうたいのレパートリー（こどものうた200）を拡大する。	3前	15	1		○		○				○	
○			こどものうたⅣ	こどものうたⅢを基礎とし、より高度な表現力を習得し、保育の場で必要なこどものうたの弾きうたいのレパートリー（続こどものうた200）を拡大する。	3後	30	2		○		○				○	
○			日誌指導Ⅲ	教育実習に向けて、実習日誌の記録の仕方を理解する。また、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用法について学ぶ。	3前	15	1		○		○					
	○		障がい者福祉論	福祉の援助を必要とする障がいのある方たちの具体的なニーズは何か、その受け皿となる援助制度の仕組み、事業の種類とその内容を学習する。	3後	15	1	○			○				○	

○	こども演習Ⅰ	保育施設での子どもとの関わりを通して、保育施設の機能・概要及び保育士の職務について理解を深める。	1 後	45	3		○	○	○	○
○	こども演習Ⅱ	幼稚園での保育者の姿や子どもとの関わりを通して、幼稚園の機能・概要及び幼稚園教諭の職務内容について理解を深める。	2 通	100	6		○	○	○	○
○	福祉支援演習	児童養護施設・障がい者支援施設の見学や作業体験を通して、保育所以外の福祉施設について学び、理解を深める。	2 通	30	2		○	○	○	○
○	あそび研究 (Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	1年次から3年次までの3年間で、段階を経ながら経験を繰り返し、保育現場においての実践力を養う。	3 前	15	1		○	○	○	
○	手話	手話で日常会話を学びながら、歌や劇などに応用してコミュニケーションの幅を広げる。さらに、聴覚障害者の文化や生活上の問題に触れ、誰もが平等に暮らせる社会のあり方を共に考える。	3 後	15	1		○	○		○
○	パソコン	効率よく操作するためにキーボードを見ずに入力できるように練習し、実務に役立つ操作方法を実習する。	3 後	15	1		○	○		○
○	保育の英会話	日本における園児の保育・教育者になることを前提として、園の日常活動に則した内容の英語表現を学ぶ。	3 後	15	1		○	○		○
○	幼児の音楽Ⅱ	幼児音楽で使用されるとする楽器、歌、それらの指導法など現場対応に応じた授業を実施する。	3 後	30	2		○	○		○
合計		科目	単位時間( 単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	前・後期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2023年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			エプロンシアター	保育教材としてのエプロンシアターを個人個人で作成し、演じ方を習得する。	3後	30	2	○			○					
	○		折紙Ⅲ	折紙Ⅰ、Ⅱで習得した技術を基に平面、立体、壁面、自分の作る作品に適した手法を立案し、卒業製作を行う。	3後	30	2	○			○				○	
		○	こどもの救急Ⅱ	子どもに起こりやすい自己の予防と手当及び子どもの病気への対応を実践的に学ぶ	3後	15	1	○			△	○		○	○	
	○		人形劇	人形劇の作り方の基本を学び実践し、人形劇を発表するまでの過程を学ぶ。卒業発表に向け、これまでの授業で学んだ実践活動を活かし、作成、発表する。	3後	60	4	○			○		○			
	○		オペレッタ	実践を通して感性を磨き、イメージ豊かな表現活動を目指す。卒業発表に向け、習得した実践力(ピアノ、歌、踊り、製作など)を活かし、発表する。	3後	60	4	○			○		○			
合計				科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

2023年6月16日※1  
(前回公表年月日:2021年5月27日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
経専北海道保育専門学校	昭和55年11月5日	中田靖泰	〒005-0004 札幌市南区澄川4条4丁目1-1 (電話)011-812-9626																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人経専学園	昭和48年4月24日	山本 清	〒005-0004 札幌市南区澄川4条4丁目1-1 (電話)011-824-1000																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	こども学科	平成二十三年文部科学省 告示第百六十六号	-																							
学科の目的	保育・幼児教育に関する幅広い専門知識とより高い保育技術を習得させるとともに、明るく意欲的、かつ感性豊かな人間性をもち、現場に即応できる人材育成を目指す																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	94単位	43単位	117単位	12単位	0単位	1単位																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
240人	156人	0人	9人	42人	51人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学則第9条により優、良、可、不可																							
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月～9月 4週以内 ■冬季:12月～1月 3週以内 ■学年末:2月授業終了から3月31日		卒業・進級条件	学則第21条による 卒業判定会議及び進級判定会議で決定																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談実施		課外活動	■課外活動の種類 絵本読み聞かせボランティア  ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(2022年度卒業生) 保育園、幼稚園、認定こども園、福祉施設等  ■就職指導内容 履歴書指導、個別面接指導、就職指導の授業、就職ガイダンス、就職セミナー等  ■卒業生数 : 79 人 ■就職希望者数 : 77 人 ■就職者数 : 75 人 ■就職率 : 97.4 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 94.9 %  ■その他  ( 2022年度卒業者に関する 2023年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (2022年度卒業者に関する2023年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>保育士</td><td>①</td><td>79人</td><td>79人</td></tr><tr><td>幼稚園教諭二種免許</td><td>①</td><td>57人</td><td>56人</td></tr><tr><td>社会福祉主事任用資格</td><td>①</td><td>57人</td><td>56人</td></tr><tr><td>折紙講師資格</td><td>③</td><td>79人</td><td>79人</td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	保育士	①	79人	79人	幼稚園教諭二種免許	①	57人	56人	社会福祉主事任用資格	①	57人	56人	折紙講師資格	③	79人	79人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
保育士	①	79人	79人																								
幼稚園教諭二種免許	①	57人	56人																								
社会福祉主事任用資格	①	57人	56人																								
折紙講師資格	③	79人	79人																								
中途退学の現状	■中途退学者 5名 2022年4月1日時点において、在学者167名(2022年4月1日入学者を含む) 2023年3月31日時点において、在学者162名(2023年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更等  ■中退防止・中退者支援のための取組 年度当初に目標設定し、毎週の職員会議にて情報共有、対策検討		中退率	3%																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 入学時の特待生試験にて3つのランクで奨学生を選出(全受験者の10%程度)Sランク特待生600,000円授業料免除、Aランク特待生300,000円授業料免除、Bランク特待生100,000円授業料免除  ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	http:keisen-hoiku.com																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施する。

- ・実践的な設備の充実と早期からの多様な実習による「基本的な知識、技能の習得」
- ・業界講演会や卒業生による職業体験談を通しての「キャリアプランニング能力の育成」
- ・年間2回開催する「教育課程編成委員会」によるキャリア教育における実習等の状況の振り返りと教育活動の評価・改善の実施

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は学校長のもとに位置付け、教育課程編成委員会で企業及び業界団体等の意見・助言を活かしたカリキュラムの改善を図る。決定事項は部長を通じ、部長代理から教務へと周知し教務全体で意思統一を図る。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2023年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
前田元照	公益社団法人北海道私立幼稚園協会 副会長	2022年4月1日～2024年3月31日(1年)	①
今野路子	こども園・ひかりのこ さっぽろ 園長	2022年4月1日～2024年3月31日(1年)	③
五十嵐京湖	認定こども園 おとぎの国 園長	2022年4月1日～2024年3月31日(1年)	③
鈴木 朗	経専北海道保育専門学校 部長	2022年4月1日～2024年3月31日(1年)	
若松幹子	経専北海道保育専門学校 部長代理	2022年4月1日～2024年3月31日(1年)	
小川 睦美	経専北海道保育専門学校 こども学科	2022年4月1日～2024年3月31日(1年)	
中谷摩美	経専北海道保育専門学校 こども未来学科	2022年4月1日～2024年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回開催、開催時期は概ね前期(4月～9月)1回・後期(10月～3月)1回

(開催日時)

第10回 平成30年7月30日 15:00～16:30	第15回 2020年12月21日 15:00～16:00
第11回 平成30年12月10日 15:00～16:15	第16回 2021年9月3日 15:00～16:15
第12回 2019年8月1日 15:00～16:30	第17回 2021年12月20日 15:00～16:00
第13回 2019年12月19日 15:00～16:15	第18回 2022年7月28日 15:30～16:30
第14回 2020年10月23日 15:00～16:00	第19回 2022年12月21日 15:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

卒業年次学生の就職に関する意識について意見交換を行った。保育業界への憧れを抱き入学してきた学生が、卒業年次となり就職への意識がどのように変化しているか調査し、その結果について話し合った。結果として給与や社風、福利厚生などを重視する傾向が高く、こどもとの関わりへの関心が薄くなっている。養成校も保育現場に於いても保育の楽しさややりがいを伝え続け、学生のモチベーションを維持する仕組みづくりが必要であると共通認識した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

保育士資格及び幼稚園教諭免許に必要な知識を学ぶことはもとより、現場で活躍している講師から実際の保育現場で行われている保育内容について学び理解を深める。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

連携している保育園の園長による「保育内容総論」の演習授業を1単位(90分×8週間)実施。実際の保育現場で実践している保育士の活動例を紹介し、子どもの成長過程や年齢に応じた配慮などを学ぶとともに、保育園のホールでの活動を想定した演習(ロールプレイ)を実施。成績評価については、出席状況や受講態度と合わせて、授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結びつけて総合的に理解できたか、レポート(1,500文字程度)と記述式試験にて優、良、可、不可の4段階で評価していただくこととしている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育内容総論	子どもの生活と保育内容について理解し、子どもの成長過程と年齢に応じた配慮や支援について学び、保育者の役割と子ども理解をロールプレイやグループワークを通して理解を深める。	西野保育園



3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 本学教育理念及び教育方針・指針に基づき、教員養成において指導力の向上を図りキャリア教育に関する必要な知識や指導方法を習得させるために職員研修を実施する。これらは学園の教職員研修規定に定められている。  
 ・産業団体や協会等が開催する講演会や研修に教員を計画的に派遣する  
 全国保育士養成協議会全国大会(年1回参加)、北海道幼稚園教諭養成校協会実習委員会(年1回参加)  
 北海道私立専修学校各種学校連合会主催教員研修(年2回参加)  
 ・教育支援活動として協力いただいている企業との「必要とされる専門知識・技能の習得」等についての意見交換(年2回)を実施する  
 ・日常の授業、実習指導の向上を図るための教員による授業参観の開催と評価会を実施する

(2) 研修等の実績  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 全国保育士養成協議会全国大会 2022年8月25,26日(オンライン開催)  
 ② 指導力の修得・向上のための研修等  
 北海道専修学校各種学校連合会主催教員研修を受講 2022年12月22日

(3) 研修等の計画  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 全国保育士養成協議会全国大会 2023年9月2,3日、北海道幼稚園教諭養成校協会(実習委員会) 2023年10月予定  
 ② 指導力の修得・向上のための研修等  
 北海道専修学校各種学校連合会主催教員研修 2023年8月1日、12月予定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針  
 本校は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について、自己点検・評価はもとより、企業等、学校関係者等が評価に参画する学校関係者評価委員会を設置して客観的な点検及び評価を行い、教育体制の強化を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。  
 (3) 学校関係者評価結果の活用状況  
 ・学校関係者評価委員より、この業界を志す高校生が減少していることが問題である。現場でも人材確保が大きな課題であり、将来への不安は尽きない。教育の質向上と学生の安定した確保が大切である。この分野のカリキュラムは国家資格のためきちんと定められており問題はない。入学者を増やし、安定して現場へ優秀な人材を供給してもらいたい。

対応: 学生募集活動を行う際に、高校生からの資料請求時には保護者宛に保育業界の現状を伝える手紙を送付し、オープンキャンパスでの学校説明時にも待遇や働く環境が向上していることを強調して伝えることとした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿 2023年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
鳥居敬徳	澄川ひろのぶ保育園	2023年4月1日～2025年3月31日(2年)	企業等
宮崎博一	社会福祉法人楡の会	2023年4月1日～2025年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
 (例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
 ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )、公表年月日: 2022年7月19日  
 URL: <http://www.keisen-hoiku.com>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について評価委員を置き、点検及び評価を行い、その結果を公表することとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育目標、所在地、連絡先等
(2) 各学科等の教育	入学定員、カリキュラム、卒業後の進路、資格取得等
(3) 教職員	教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実習の取り組み状況、就職支援等への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事の取り組み状況等
(6) 学生の生活支援	学生支援の取り組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	納付金の取り扱い、活用できる経済的支援措置等
(8) 学校の財務	財務諸表等
(9) 学校評価	学校関係者評価の結果及び改善方策
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<http://www.keisen-hoiku.com>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		憲法	基本的人権が争点となった具体的な事例をとりあげ、日本国憲法における人権論のありようを講義するとともに、議論する。	1後	30	2	○			○			○	
	○		比較憲法	中華圏の国の憲法体制を知る。また、中国（中華人民共和国）及び台湾（中華民国）の憲法体制について学習する。（2023年度未開講）	1前	30	2	○			○				○
○			情報リテラシーと処理技術	Windowsの基本操作・代表的なアプリケーションソフトウェアの基本操作を学び、パソコンを利用する上で必要な知識と技術を身につける。	1前	30	2	△	○		○				○
○			英語コミュニケーション	日本のグローバル化に対応するコミュニケーション・ツールとしての英会話を念頭に、授業を通じて日常的レベルの英語の語感を身につけ、知識・英会話力をアップする。	1後	30	2		○		○				○
○			健康科学	現代社会が抱える健康に関する諸問題と生活習慣との関連について理解し、生涯を通じた健康づくり・体力づくりの基礎を習得する。	1前	15	1	○			○				○
○			スポーツ（実技）	基礎体力・運動技術・チームワーク・豊かな人間性・自主的な判断による行動・安全性の確保を養う。健康維持・増進をはかり、自己の健康を管理する能力を身につける。	1前	30	1			○	○				○
○			保育原理	「保育」を考える基本的な視点を養うために、保育の意義や目的、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針など多様な側面から学びを深めることを目的とする。	1前	30	2	○			○				○
○			教育原理	保育の意義と目的、法令及び制度など保育の基本について理解し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育におけるさまざまな課題に関する認識を深める。	1前	30	2	○			○				○
○			こども家庭福祉	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷を学ぶ。子どもの人権擁護や子ども家庭福祉の制度・実施体系・現状と課題について理解を深め、動向と展望について考察する。	1後	30	2	○			○				○
合計											単位時間(			単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2023年度																		
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携			
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任				
○			社会福祉論	社会福祉の意義や歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援に触れ、その意義や制度体制について理解を深めるとともに、子ども家庭福祉との関連についても学ぶ。	1後	30	2	○			○			○				
○			こども家庭支援論	子育て家庭に対する支援の意義・目的の理解を基礎とし、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解を深める。	2後	30	2	○			○				○			
○			社会的養護Ⅰ	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷を学ぶ。さらに、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本や制度・実施体系・現状と課題について理解を深める。	1前	30	2	○			○				○			
○			保育者論	1. 保育者の役割と倫理の理解 2. 保育士の制度的な位置づけの理解 3. 保育士の専門性についての考察及び理解 4. 保育者の連携・協働の理解 5. 保育者の資質向上とキャリア形成についての理解の5項目の習得を目標とする。	1前	30	2	○			○					○		
○			保育の心理学	幼稚園、保育園における園児とのかかわりについて、心理学を基礎にして考察する。特に子どもの発達、子どもの相互のかかわりの意味を理解し、その援助の在り方について、基本的な理解を促すことを目的とする。	1前	30	2	○			○					○		
○			こどもの発達と家庭支援	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、家族・家庭の意義や機能を理解する。親子関係や家族関係等について発達の観点から理解を深め、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。	1後	30	2		○		○					○		
○			こどもの理解と援助	こども理解を深めるための様々な視点や方法を学とともに、それを踏まえた上での援助の考え方や方法について学ぶ。	2後	15	1		○		○						○	
○			こどもの保健	小児の成長発達と生理機能のダイナミズム、その過程で生ずる先天異常、健康保持増進のための予防接種、小児がおこす事故と安全対策について、理解が深まるように学んでいく。	2前	30	2	○			○						○	
○			こどもの食と栄養	乳幼児期の健康と食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、保育者として、子どもに適切な食事を提供する意義と食生活等関連するガイドライン等を踏まえ理解する。	2後	30	2	○			○						○	
○			保育の計画と評価	カリキュラムの構成理論についての理解を踏まえ、全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法やこどもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。	1後	30	2		○		○			○	○			
合計											単位時間( 単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	前・後期
		1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2023年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			保育内容総論	保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全般を理解し、各領域を総合的に捉える視点について学ぶ。保育の基本を踏まえた保育内容に展開について具体的な保育実践と結び付けながら学ぶことを目的とする。	1前	15	1	○			○			○	
○			こどもの指導法（健康）	乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育・発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について学ぶ。	2前	15	1	○			○			○	
○			こどもの指導法（人間関係）	子どもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深める。	1後	15	1	○			○			○	
○			こどもの指導法（環境）	環境とは何かを理解し、そこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的事例を上げて学習していく。	2前	15	1	○			○			○	
○			こどもの指導法（言葉）	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、子どもへの先進となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深める。文学への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についての意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探究する。	1前	15	1	○			○			○	
○			こどもの指導法（リズム表現）	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、子どもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	
○			こどもの指導法（言語表現）	「表現」の内容を主軸として、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身に付ける。	2前	15	1	○			○			○	
○			こどもの指導法（造形表現）	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する。さらに材料、用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。	1後	15	1	○			○			○	
○			絵本・紙芝居Ⅰ	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境と、保育所保育指針に示される保育の内容を踏まえて、子どもの生活や遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養う児童文化財（絵本、紙芝居、ストーリーテリング等）について学ぶ。	2前	15	1	○			○			○	
合計															単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	前・後期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2023年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			表現とこどもの運動	こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びができる知識及び実践力を理論的に深める。	1後	15	1		○		○			○		
○			乳幼児保育Ⅰ	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割について学ぶ。また、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題や3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。	1後	30	2		○		○		○			
○			乳幼児保育Ⅱ	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について学ぶ。養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。	2前	15	1		○		○		○			
○			こどもの健康と安全	子どもの健康状態の観察や発育、発達とその評価等について基本的な知識を学び、実際に体験する。実習においては、沐浴実習、調乳の実習、身体測定の実習、実践活動を重視、さらに子どもの事故と応急処置等を行う。	2後	15	1		○		○				○	
○			障がい児保育	障がいのある子どもたちと関わる為に必要な知識や支援の方法等を学ぶ。保育場面における日常生活動作、食事動作、排泄動作、更衣動作など具体的な保育方法について理解する。相談機関等の種類と内容を理解し、個別援助の概略と保護者を中心とした支援の内容を理解する。	2後	30	2		○		○				○	
○			社会的養護Ⅱ	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。施設養護及び家庭養護の実際や社会的養護における計画・記録・自己評価、相談援助の方法・技術、子ども虐待防止と家庭支援について理解する。	2前	15	1		○		○				○	
○			子育て支援	子育て支援の意義と原則、子育て支援の基本を理解し、子どもの健やかな育ちをめざした保護者支援の理論・技術を演習課題や事例を通して学習する。	2後	15	1		○		○				○	
○			保育所保育指針Ⅰ	平成29年3月に改訂された保育所保育指針のポイントを総則から保育内容、健康及び安全の各章について、具体的な事例を交えながら学び、保育所において子どもの健やかな育ちをどう保障していくのか考察する。	2後	15	1		○		○				○	
○			特別支援教育	特別な保育・教育ニーズを持つ子どもを支援するにあたって、子ども自身の特性を学ぶ。子どもを支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別的教育試験計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深める。	2前	15	1		○		○				○	
合計																単位時間( 単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	前・後期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		環境論	具体的な環境事例を示しながら、それらと子どもの発達の関係性を考える。また、環境を通して行う保育の意味をしっかりと学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身に付ける。(保育士コース未開講)	2前	15	1		○		○			○	
○			日誌指導 I	実習日誌の必要性及び記録の方法について模擬日誌作成の演習を通し、具体的に理解する。実習後の総括と自己評価及び課題の明確化につながる記録としての日誌の位置づけについても理解する。	1通	30	2	○			○				○
	○		ピアノ I	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人レッスンでピアノを使用して学び、基礎的技術を習得する。初心者はバイエル教則本、経験者は個人のレベルに合った教則本を使用し、演奏技術及び読譜力の向上を目指す。	1通	30	2		○		○		○	○	
	○		ピアノ II	ピアノ Iを踏まえ、更に演奏技術及び読譜力の向上を目指す。初心者の習得目標はバイエル教則本100番とする。	2通	30	2		○		○		○	○	
	○		こどものうた I	こどもの生活や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。「こどものうた200」を教本とし、園生活、行事、うたあそびなどから個人のレベルに合った課題曲の個人レッスンを受け、弾き歌いの技術・技能を習得する。(保育士コース未開講)	1後	30	2		○		○		○	○	
○			保育活動 I	こどもの生活や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。手遊びや見立てあそび、ごっこ遊び、運動遊びなど、保育士や他のこどもとの関係や集団の中での体験を豊かにするための知識と技術を習得する。	1前	15	1		○		○		○		
○			保育活動 II	保育活動 Iを基に、保育所実習に活用できる遊びを実践し、学ぶ。子どもの自立心や社会性が育つ集団遊びを実践する。ねらいに基づいた集団遊びを学ぶ。	1後	15	1		○		○		○		
○			パネルシアター	こどもの生活や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。児童文化財(パネルシアター)に親しむ体験を豊かにするための知識と技術を習得する。素材の特性の理解とそれらの活用や作成に必要な知識及び技術を製作活動を通して学ぶ。	1前	15	1		○		○		○		
○			合奏指導	本講義では、歌、器楽合奏などを通じて幅広く幼児音楽に関わる知識と技術を習得することを目的とする。幼児音楽で 사용되는楽器や歌、それらの指導法などを保育者としての視点から、学ぶ。	1通	30	2		○		○				○
○			保育・教職実践演習	本学における教育課程の全体及び保育実習等の体験を通して、専門知識と技術、総合的判断力、倫理観等の習得について学びを振り返る。現代的課題についての現状を知り、対応及び保育士、保育現場、地域等に求められることについて、多様な視点から考察する。	2通	30	2		○		○				○
	○		保育実習 I	保育所にてクラスに入り、保育所保育の目標、内容、方法、評価について作成した指導案を基に、具体的に学ぶ。また、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。	2前	160	4			○		○	○	○	○
合計															
単位時間(													単位)		

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	前・後期
		1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2023年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		保育実習指導Ⅰ	保育実習Ⅰ（保育所及びその他の児童福祉施設等）について目的や概要を理解し、福祉職として保育士の役割を学ぶ。保育実習の心構えと準備、事後の学びとして総括・評価を経て、自己課題を明確にする。	1通	30	2	○			○			○		
	○		保育実習Ⅱ（保育所）	保育所にてクラスに入り、保育所保育の目標、内容、方法、評価について作成した指導案を基に、具体的に学ぶ。また、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。	2前	80	2			○	○	○			○	
	○		保育実習Ⅲ（施設）	保育所以外の児童福祉施設の養護の実践をし、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。施設を利用する対象児・者と養護内容の実際、施設のもつ全体的な養護機能等について、理解を深める。	2前	80	2			○	○	○	○		○	
	○		保育実習指導Ⅱ（保育所）	保育実習Ⅱ（保育所）について目的を理解し、保育実践力を培う。保育実習Ⅰを踏まえた保育の改善を実践を通して学び、総括・自己評価を経て、保育に対する課題を明確にする。	1後	15	1	○			○		○			
	○		保育実習指導Ⅲ（施設）	障がい児・者の支援についての理解・支援の実践を知り、実習に向けて意義と目的を理解する。障がい児・者施設での実習に向けての基本的な知識と心構えを学ぶ。	1後	15	1	○			○				○	
○			手作りおもちゃⅠ	布の扱い方や縫い方を実践し、技術を取得する。保育実習に向けての名札を作成する。	1前	30	2		○		○				○	
○			折紙	日本折紙協会：折紙講師資格取得を目指す。	1後	30	2		○		○				○	
	○		日誌指導Ⅱ	幼稚園実習に向けて、実習日誌の記録方法を学び、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用方法について理解を深める。（保育士コース未開講）	2前	15	1		○		○		○			
合計				科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	前・後期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ペン字	ひらかな、カタカナの正しい字形を会得し、実習に向けての身上書、履歴書の完成を目指す。	1前	15	1	○			○			○	
	○		ピアノⅢ	ピアノⅠ・Ⅱを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、演奏技術・技能を学習する。	2前	15	1		○		○		○	○	
	○		ピアノⅣ	ピアノⅠ・Ⅱ・Ⅲを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、演奏技術・技能を学習する。(保育士コース未開講)	2後	30	2		○		○		○	○	
	○		こどものうたⅡ	こどものうたⅠを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、保育者として必要とされる引きうたいの技術・技能を修得する。	2前	15	1		○		○		○	○	
	○		こどものうたⅢ	こどものうたⅠ・Ⅱを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、保育者として必要とされる引きうたいの技術・技能を修得する。(保育士コース未開講)	2後	30	2		○		○		○	○	
○			就職指導	就職活動に向けて具体的な試験対策(履歴書指導、面接指導、マナー等)を行い、志望先に就職することを目指す	2通	30	2		○		○		○		
	○		パソコン	具体的な保育事例をもとに演習を行う。デジカメ・USBメモリ・CD-ROM・プロジェクターなどの使用方法、パソコンを使用するうえでのルールとマナーを学習する。	2後	15	1		○		○			○	
○			保育者の心得	幼児保育・教育現場での専門職としての役割について理解を深め、こどもや保護者、職員との関わりや社会人としてのマナーについて、演習を通して学ぶ	2後	15	1		○		○		○		
○			保育所保育指針Ⅱ	保育所保育指針に引き続き、沿って現在の保育所・保育士の役割を学ぶ。	2後	15	1	○			○		○		
合計											単位時間(			単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	前・後期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			こどもと体育	体育遊びを実践的に学び、指導方法やこどもの運動発達について理解を深める。こどもの成長、発達と運動の関係について学び、体育遊びを実際に体験し、自らが行うことで、こどもの気持ちに寄り添うことが出来る様にする。	2前	15	1	○						○	
	○		こどもと食育	こどもの離乳食やおやつなど、こどもの様々な食育活動について学ぶ。(保育士コースのみ開講)	2後	15	1	○		○				○	
		○	カリキュラム立案	カリキュラム立案の大切さを理解し、幼稚園実習に向けて、立案の考え方と手順を学習する。(保育士コース未開講)	2前	15	1	○		○		○			
		○	こどもの指導法「音楽表現」	領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解する。	2前	30	2	○		○				○	
		○	教育実習事前・事後指導	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。(保育士コース未開講)	1後	10	0	○		○				○	
		○	音楽表現論	子どもが遊びや生活の中で、子どもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての完成を養う。子どもが表現することの楽しさを生み出す過程を理解し、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的指導法の習得と音楽的技術を身に付ける。(保育士コース未開講)	1前	15	1	○		○				○	
		○	造形表現論	幼児造形の指導・援助者としての形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について理解する。また、技法に伴った材料、用具の特性と利用について理解を深める。(保育士コース未開講)	1前	15	1	○		○				○	
		○	人間関係論	人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考える。(保育士コース未開講)	1後	15	1	○		○				○	
		○	教育実習	講義等で習得した知識・技術を基礎とし、子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深め、職務内容、教育理念、教育内容や教育方法について学ぶ。(保育士コース未開講)	2前	160	4			○		○		○	○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		教育心理学	発達の観点から乳幼児期におけるこどもの身体的・心理的特徴について理解を深め、現代社会において必要とされる「教育」の在り方を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
	○		幼稚園教育要領	幼稚園教育要領の歴史的概観や改訂に至る背景、改訂のポイントを知る。幼稚園教育要領の内容について各章ごとに学習し、幼稚園の生活・保育・教育の取り組みについて学ぶ。(保育士コース未開講)	2後	30	2	○			○			○	
	○		教育課程論	教育課程に関する基本的な知識を学び、保育の専門職としての基礎を培う。(保育士コース未開講)	1後	15	1	○			○				○
	○		教育方法論	世界および日本の教育方法の歴史を学び、著名な教育学者とその教育方法についての知識を身につける。身に着けた知識に基づいた実践ができることを目的とする。(保育士コース未開講)	1後	15	1	○			○				○
	○		こどもの理解と相談支援	相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。	2前	15	1	○			○				○
	○		障がい者福祉論	福祉の援助を必要とする障がいのある方たちの具体的なニーズは何か、その受け皿となる援助制度の仕組み、事業の種類とその内容を学習する。(保育士コース必修)	2後	15	1	○			○				○
	○		手話	手話で日常会話を学び、聴覚障害者の文化や生活上抱える問題に触れ、誰もが平等に暮らせる社会のあり方を共に考える。	2後	15	1		○		○				○
	○		保育の英会話	日本における園児の保育・教育者になることを前提として、園の日常活動に則した内容の英語表現や、他の英語では学ぶことができない幼児言葉・わらべ歌などを身につける(保育士コース未開講)	2後	15	1		○		○				○
	○		人形劇	人形劇の成り立ちや作成過程への理解を深め、作品や人形製作の基礎を身に付け、実践し、人形劇を発表するまでの過程を学ぶ。(保育士コース未開講)	2後	60	4		○		○				○
	○		オペレッタ	実践を通して感性を磨き、イメージ豊かな表現活動を目指す。卒業発表に向け、習得した実践力(ピアノ、歌、踊り、製作など)を活かし、発表する。(保育士コース未開講)	2後	60	4		○		○				○
	○		育児コミュニケーション	育児についての知識を深め、育児状況を理解した上で、保育士としての自覚を持ち子どもとの関わりを持てるようにする。(保育士コース未開講)	2後	60	4		○		○				○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	前・後期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		絵本紙芝居Ⅱ	大型絵本（内容、絵、仕掛け等をすべてオリジナル）を製作し、学期末の発表会で担当を決めて発表する。表現力、創作力を洗練し、グループ作業により協調性も養われる。（保育士コース未開講）	2後	60	4		○			○	○		
	○		ボランティア	福祉施設でのボランティア活動をとおして、利用者とのコミュニケーションを図る。あわせて、福祉施設の作業内容を把握し、施設職員の役割を知る。（保育士コース未開講）	2後	60	4		○			○	○	○	
	○		手作り教材	幼児の造形に用いられる様々な素材の特性、扱い方と活動の内容、展開の仕方について体験を通して学ぶ。（保育士コースのみ開講）	2後	15	1		○		○			○	
	○		ピアノⅤ	幼児に幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、より高度な演奏技術・技能を学習する。（保育士コースのみ開講）	2後	15	1		○		○		○	○	
	○		こどものうたⅣ	より豊かな表現力を習得し、保育の場で必要なこどものうたの弾きうたいのレパートリー（続こどものうた200）を拡大する。（保育士コースのみ開講）	2後	15	1		○		○		○	○	
	○		介護概論	介護について理解を深めると共に、介護を行う為に必要な知識を身につける。	2後	15	1		○		○			○	
	○		保育演習Ⅰ	講義や演習で習得した知識・技術を基礎とし、保育者の職務内容について実践的に学ぶ。（保育士コースのみ開講）	1通	60	4	△	○		○	△	○	○	
	○		保育演習Ⅱ	講義で習得した知識を基礎とし、様々な福祉施設の機能や役割などについて学ぶ（保育士コースのみ開講）	2後	30	2	△	○		△	○	○	○	
	○		保育演習Ⅲ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を実践し、知識を深め、技術の向上を目指す。（保育士コースのみ開講）	2後	30	2	△	○		△	○	○	○	
合計				科目	単位時間(									単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	前・後期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		保育実践Ⅰ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を実践し、知識を深め、技術の向上を目指す。	2通	30	2	○			○	△	○		△
	○		保育実践Ⅱ	保育実践Ⅰを基礎とし、こどもへの理解を深め、保育者の職務について実践的に学ぶ。	2通	30	2	○			○	△	○		△
	○		保育実践Ⅲ	保育実践Ⅰ・Ⅱを通して習得した知識・技術を実践し、保育者としての資質の向上に努める。	2通	45	3	○			○	△	○		△
	○		教育実践Ⅰ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を実践し、知識を深め、技術の向上を目指す。(保育士コース未開講)	2通	60	4	○			○	△	○		△
	○		教育実践Ⅱ	教育実践Ⅰを基礎とし、こどもへの理解を深め、保育者の職務について実践的に学ぶ。(保育士コース未開講)	2通	60	4	○			○	△	○		△
	○		教育実践Ⅲ	教育実践Ⅰ・Ⅱを通して習得した知識・技術を実践し、保育者としての資質の向上に努める。(保育士コース未開講)	2通	30	2	○			○	△	○		△
	○		病児保育Ⅰ	病児・病児後の発達・心理を理解する。こどもと発達と発達段階を踏まえた関わり方を学ぶ。	1後	15	1	△	○		○			○	
	○		病児保育Ⅱ	病児保育の概念や基本的理念、社会背景を学び、様々な病児・病後児保育室の特徴を知る。	2後	15	1	△	○		○	△		○	△
	○		こどもの救急Ⅰ	普通救命(自動体外式除細動器業務従事者)講習の内容に加えて、小児・乳児の心肺蘇生、傷病者管理、外傷の応急手当、搬送法など学ぶ	2前	15	1	○			○	△		○	○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

